

聖書:ルカの福音書4章16~30節

説教:郷里では歓迎されません

はじめに

ちょうど五年前、イスラエルに行かせていただいたときに、ナザレにも寄ることができました。イエスの住んでおられた村は、もう二千年も経っていますから土の下に埋もれてしまい、今は当時の様子を再現したテーマパークのようになっていました。ぶどう畑が広がるなだらかな丘の中腹にひっそりと立っている小さな村であったことを思い出します。

イエスは小さな時からずっとナザレで生活をしておりました。そしておよそ三十歳になったとき、ヨルダン川でバプテスマを受けられます。それからすぐに荒野で四十日間断食をし、悪魔から三つの試みを受けられてから、ご自分の故郷ナザレに帰られました。それが今日の箇所です。ところがイエスは故郷から追い出されてしまい、二度とナザレに戻れなくなってしまいます。どうしてそんなことになったのか。そこにどんなイエスの御思いがあったのか。ともに考えてまいります。

1 ナザレ

1) 互いによく知っている

イエスが育ったナザレがどんな村であったのか。具体的に分かるように、私が生まれ育ったところも小さな村でしたので、一つ例を挙げてご紹介します。私の父が亡くなって、葬儀は家で行うことにした。村の女性たちが朝から手伝いに来て、勝手に他人の台所には行ってきて、いきなり戸棚を開けて皿を出し始めた。近所の人は、あそこの家のどこに何が置いてあるかまで知っている。都会の人にはびっくりするかもしれませんが、これが村で暮らすということです。何かあったら村中の人々が力を合わせて助け合わなければ生きていけないのです。個人情報はどうのなどとは言ってられません。ナザレもそうでした。

2) イエスへの好奇心

そんな村で、ある日突然イエスがいなくなったのですから、これはちょっとした事件です。マリアに聞いても、「さあ、うちの息子がどこに行ったかわからない」と要領を得ない。そうこうしているうちに、イエスの噂が聞こえてきました。なにやら神の救いのことを語りながら病をいやし、悪霊を追い出し、障がいを持った人の身からだをいやし

ているらしいのです。あのイエスはこの村の大工ではないか。それが新興宗教の教祖にでもなろうとしているのか。村中の人たちが首をかしげていると、ある日、イエスがひょっこりと村に帰ってきた。ちょうどその日は安息日で、村の人たちがに会堂に集まってきて、イエスのことをこの目で確かめよう。みな視線は、イエスに注がれます。

そんな異様な雰囲気の中で、イエスは立ち上がって預言者イザヤのことばを読み上げます。18節から19節。「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたし目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、主の恵みの年を告げるために。」

固唾をのんで注目している人々に向かって、イエスはこう切り出す。21節。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」

これを聞いて村の人たちは、「俺たちと同じ百姓をしているお前が、なにを偉そうに」と反発する。でも語っている内容はすばらしいので、とにかく戸惑いながらも、次は奇蹟を起こして見せてくれるのではないかと、期待して目を輝かせています。

3) 崖から突き落とそうとした

そのことをよくご存じのイエスは、先回りをして23, 24節でこう言います。「きっとあなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カペナウムで行われたと聞いていることを、あなたの郷里のここでもしてくれ』と言うでしょう。」「まことに、あなたがたに言います。預言者はだれも、自分の郷里では歓迎されません。」

「医者よ、自分を直せ。」さしずめ、「医者の不養生」と、「紺屋の白袴」を一緒にしたような意味でしょうか。他の村の病人ばかり治していないで、ナザレでも病人を治してみせろ。そんな意味です。イエスはどうか。「申し訳ありませんが、ここではできないのです」と、丁寧に断れば無事に済んだはずですが、ところが、「預言者は故郷では歓迎されない」と言って、エリヤとエリシャのことまで持ちだしてきたので、人々の怒りの火に油を注ぐことになり、崖から突き落とされかけてしまう。事態は意外な方向に展開していく。どうしてイ

エスはこんなことを言うのか。とにかくまず、エリヤとエリシャのことをまず見てから考えます。

2 預言者は自分の郷里では歓迎されない

1) エリヤ (I列王記17章9節)

エリヤのことは、第一列王記17章9節以降に出てきます。当時、イスラエルは雨が降らず、大飢饉になっていました。そのとき主は、預言者エリヤにシドンのツアレファテへ行くようにと命じます。シドンはイスラエルではなく、異邦人の地です。エリヤがそこへ行ってみると、食べるものがないので、これから最後の食事をして息子とともに死ぬところなのだという一人のやもめに出会う。そこでエリヤは母親に、「かめの粉は尽きず、その壺の油はなくなる」と語って、この母親と子どもを救うという話しです。

2) エリシャ (II列王記5章1節)

また二つ目のエリシャのことは第二列王記5章1節以降に出てきます。シリア人、すなわち異邦人であるナアマンは、政府の高い地位にあった人でした。彼は、ツアラアトに冒されていて、ずっと苦しんでいたときに、自分の家で働いていたイスラエル人の女中から、エリシャの所へ行けば、きっとツアラアトを治してくださるでしょう、と言うのを聞き、それで出かけて行く。途中いろいろあったのですが、とにかくナアマンは信仰によってきよくされていく。そんな話しです。

エリヤとエリシャ、二人ともイスラエルには遣わされなくて、異邦人のやもめと、異邦人のナアマンのところだけ遣わされた。この二人のことを引用しながら、イエスはナザレの人たちにこう語った。「わたしは、あなたがたのところには遣わされていないので、あなたがたが期待しているような奇蹟は一切行いません。」

3) なぜ人々を怒らせるのか？

これはもうけんかを売っているようなものです。期待が大きいだけに、ぴしゃりとこんなふうと言われたら、だれだって怒るでしょう。どうしてイエスは故郷の人たちを怒らせるようなことを言ったのか。

ナザレのかたがたとはいまだに我慢してお付き合いしてきましたが、これからは神の子として生きていくので、もうあなたがたとは身分が違いすぎますから、お付き合いしません、ということか。まさかそんなことではないはず。とすれば、なぜイエスがナザレの人たちを怒らせるようなことを

わざわざするのか。きっと何か理由があるはず。そのことを考えます。

3 イエス

1) 今日、耳にしたとおり、実現した

手がかりは21節です。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」

直訳すると、「あなたがたの耳の中で、この聖書のみことばが実現しました。」二つに分けて考えます。一つ目。「耳の中で」とうはどういうことか。二つ目。「みことばが実現した」というけれど、いったいどこでどんなふう実現したのか。なにも起きていないではないか。

まず「耳の中で」から取り上げます。これは難しいことではない。会堂にいる人たちは、イエスがイザヤ書のみことばを語るのを耳で聞いたということです。「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油をそそぎ、わたしを遣わされた。」これを聞いた。ふつうなにかを聞いたらどうなるか。二つある。聞いても反応せずに無視して何もしない。もう一つは、聞いて何かを考えて反応して行動を起こす。この場合どっちか。イエスが、あなたがたはいま耳の中で聞ききましたよね、と念押ししているのですから、人々が行動を起こすことを予想していることになる。いったいどんな行動か。

それが二つ目の「実現した」と関係してきます。でもどうでしょうか。イザヤ書には、「捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし」とありましたが、いったいいつ実現したのか。イエスが、「今日」といつているのですから、この時しかありません。「耳の中で」と「実現した」ということ、それが「今日」であったことを結びつけていくと、一つところに行き着きます。会堂にいる人たちは、何をしたか。イエスが語ることを耳で聞いて、憤りに満たされました。立ち上がって、イエスをつるし上げ、崖から突き落とそうとし、イエスは故郷のナザレから追い出されてしまいます。故郷から追い出されることを指して、イエスは「今日実現した」と語っているようなのです。追い出されることが、聖書のみことばとどうつながるのでしょう。それを最後に考えます。

2) 故郷から追い出されるように仕向ける

イエスにとって、ナザレの人たちは、一緒に汗水を流し、苦勞をともにし、悲しいときは泣き、楽

しいときは笑ってきた人たちです。格別に悪い人たちなので、イエスを追いだしたのではありません。みておわかりのように、追い出すように仕向けているのはイエスです。どうしてそんなことをするのか。

イエスはこれからどこに向かうのでしょうか。十字架に向かう旅をはじめたばかりです。楽しい旅ではない。つらいことが待っている旅です。私は、人生の途中でつらい目にあったとき、故郷に戻りたいと考えたことが一度あります。そこには父も母も親戚もいる。なにかあれば助けてくれる仲間がいる。そんな思いでした。

イエスはどうでしょう。イエスはナザレの村の人たちを愛しているのです。でも、つらいからと言ってナザレに戻ることは絶対にできません。故十字架に向かう旅のはじめに、イエスは故郷へ帰る道を閉ざします。そのためにあえて人々をいらだたせるようなことを語ったのです。

3) 十字架に向かうために

そのとき、何も思わなかったでしょうか。そんなはずはありません。会堂には、親しい近所のおじさんおばさんがいたでしょう。一緒に働いた仲間もいた。彼らと別れたくはなかったはずです。でも、心を鬼にして、イエスは人を怒らせるようなことを言わなければならない。そうしないと十字架にいくことが難しい。

「今日、この聖書のみことばが実現しました。」
こうしてイエスはご自分の故郷から追い出され、最後にご自分の故郷であるこの世からも追い出され、十字架におつきなっていくのです。罪深い者たちに、「主の恵みの年を告げ知らせるために」そのようにしてくださいました。